

園長だより

二十号三十年八月
竹鼻保育園
園長 川出昭順

この夏は今までに経験したことのないような暑い夏でした。猛暑の中、子どもたちは汗をかきながら元気に保育園の生活を楽しんでおります。水鉄砲の水遊びに、プール遊びなど大変賑やかな夏ならではの光景です。元気な悲鳴を聞くと思わず園長室から飛び出て、何をしてくれるかを確認するのですが、自分も参加したい欲求に駆られます。楽しいですよ。

お盆

お盆が近くなってきました。実家へいかれ、お墓参りをされる方が多いと思います。お子さんを連れて、亡きご先祖さまのことをお話しになりお参りされることは、お子さんに大切な経験として、記憶に残ることでしょう。子供にとつ



プール遊びです。女の子達の黄色い声聞こえてきます。さくら4組のクラスだよりから頂きました。

ては深い意味は分かりませんが、毎年お墓参りをしたという経験は、一生残ります。そして、亡きご先祖様のことを聞いて、心の中に締まっていくのでしよう。ご先祖様のお陰をもって私があり、ご先祖様の導きによって私の未来もあることを教えられるのです。

仏教の教えに出会うことはなかなか出来ませんが、日本人が大切にしてきたお盆の行事に参加して、自然に接していくのです。全くそのようなことに参加できないご家族もあるかと思いますが、竹鼻保育園では毎日仏様に手を合わせ、仏教の教えを大切に伝えております。本堂の前でお子さんと一緒に手を合わせる、親さんが仏様に心を寄せておられることを、子どもは感じ取ります。親さんの自然な姿から学び取っていくのでしよう。

善人と悪人

きょうこんなお話があります。中国で出来たといわれる百喻(ひやくぐ)経というお経さんにあるお話です。

Aさん、Bさんというお隣さんがありました。Aさんは喧嘩ばかりしていましたが、Bさんの家族は喧嘩ばかりしていたそうです。ある時、BさんはAさんに会って予てから聞きたいと思つて話を話しました。

Bさん「ご存じのように我が家は喧嘩ばかりで困り果てています。お宅は皆さん仲良くお暮らしますが、何かコツがありましたら教えてください。」

Aさん「コツなど何もありませんが、Bさんのご家族は善人ばかりだから賑やかなのでしようね。私のところは

悪人ばかりですから何とかやっているのでしょうか。」
Bさんは何のことやらさっぱり分かりませんでした。

ある時、大変なことが起こりました。Aさん宅の大切に飼っていた馬が逃げ出してしまったのです。

Bさん「うまく収まっていたAさん宅も、これで大騒ぎになるだろう。しめしめ・・・」と聞き耳を立てて、ことの成り行きを見守りました。しかし、なかなか喧嘩が始まりません。こんな会話が聞こえてきました。

Aさん「戸締まりを確認しなかつたため大事な馬が逃げてしまった。オレが忘れたためだ。申し訳ない。」

Aさんの奥さん「あなたが悪いのはありません。お疲れでしたので、私がしなくてはならなかつたのに、悪いのは私です。ごめんなさい。」

息子娘「お父さんお母さんはお年でお疲れですから、若い私達がしなくてはならないのに、ごめんなさい。」

これを聞いていたBさんは、これでは喧嘩にならない。もう少しでこんなことが起こつたら、

Bさん「戸締まりを忘れたのはお前か」

奥さん「私は忙しくて戸締まりをする時間は全くありません。よくご存じでしょう。あなたがどうしてしなかつたのですか」

Bさん「息子と娘よ、何をしていたのか、戸締まりもしないで・・・このバカは！」

息子娘「親父こそバカでないか。若い者はいろいろ忙しいことぐらい分かるであろう。」

お前が悪いと大騒ぎになりました。その時、BさんはAさんの言葉に気づいたので。うちは善人ばかりであ

ると。自分は悪くない、悪いのはお前だと。Aさんのお宅なら、自分が悪かつた、戸締まりを忘れたのは自分だと、申し訳ないと、家族がそれぞれ言ったなら、喧嘩にもならない。そういうことであつたかと。

悪人正機あくじんしょうきという親鸞おんらん聖人の教えを分かり易く語つたお話です。

長い人生で一番厄介やっかいなことは、家族がばらばらになることではないでしょうか。いろいろな事情で一緒に暮らせないということはどこにでもあることですが、家族がお互いを思う心がなくなることは悲しいことです。Bさんのお宅のようにオレがオレがというエゴの心でいると自分のことを棚の上に置いて、人を批難ばかりする、喧嘩が絶えなくなるのです。家の中が面白くない、一緒にいたくないということも思っている人がいたら、この問題で苦しむことになります。

どこに解決の道があるのでしようか。仏様に聞いてみると、見えてくるのです。俺は悪くない、あいつが悪いのだと少しでも思つたら、ここに問題があるので。自分はどうなの？俺も悪いけどあいつも悪い。自分の問題を真正面から見えないとこういう見方になります。ここには解決はありません。しかし、仏様の教えに出遇たら、申し訳ない、ごめんね、ということが出てきます。私の頭が下がつたら、一瞬のうちに解決出来ます。不思議なことです。しかし、なかなか頭が下がらない私がある。この私に目がむくというのが、仏教の教えに触れるということなんです。このことに気づくと、ごめんなさいと言えなくても、相手を氣遣きづかう言葉が自然に出てきます。お盆に思うこと少しお話しさせていただきました。